

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
 担当課長名：東川 直正

事業の概要

事業名	一般国道56号（四国横断自動車道） おおがたしまんと 大方四万十道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：高知県幡多郡黒潮町入野 至：高知県四万十市右山	延長	7.9km		
事業概要	大方四万十道路は、四国横断自動車道の一部を構成する道路で、幡多郡黒潮町入野から四万十市右山に至る延長7.9kmの自動車専用道路である（四国横断自動車道は徳島県阿南市から高知県四万十市に至る阿南四万十線と愛媛県宇和郡愛南町から愛媛県大洲市に至る愛南大洲線で構成される延長約440kmの高規格幹線道路である）。				
事業の目的、必要性	当該区間の整備により、南海トラフ地震発生時に住民の避難や緊急物資の輸送を支える「命の道」として津波浸水域を避けつつ防災拠点や四万十市中心部を連絡するとともに都市部や空港、第二次救急医療機関へのアクセス向上により、高知県西南部における観光振興や地域産業、緊急搬送などの医療活動を支援するものである。				
全体事業費	約380億円	計画交通量	約10,700～11,500台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見	<p>【高知県知事】</p> <p>一般国道56号（四国横断自動車道）「大方四万十道路」事業の予算化に同意いたします。</p> <p>四国地方の高速道路網の骨格をなす四国8の字ネットワークを構成する四国横断自動車道は、平常時には、県西部の地域経済の活性化を支える重要な社会資本として、災害時には、円滑な救援活動等を確保するために不可欠な命の道として重要な役割を担うことから、県民一同、早期完成を待ち望んでいます。</p> <p>本県といたしましては、埋蔵文化財調査や用地買収の早期完了など、事業が円滑に推進できる環境を早期に整えられるよう、沿線自治体や関係機関と連携し最大限努力するとともに、スピード感を持って取り組んでまいります。</p> <p>大方四万十道路につきましては、本線の整備と合わせ沿線自治体が計画している防災拠点の整備など、関連する事業の推進に協力していきます。</p> <p>今後も、地域産業・観光振興や災害時の備えを高めるための取り組みを後押し、地域経済の活性化や防災力の向上につなげてまいりますので、「大方四万十道路」を平成31年度の新規事業として着手していただきますようお願いいたします。</p>
----------------	--

学識経験者等の第三者委員会の意見	<p>・新規事業化については妥当である。</p>
------------------	--------------------------

事業採択の前提条件	<p>・費用対便益：便益が費用を上回っている。</p> <p>・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（平成27年4月9日）、都市計画決定手続き完了（平成29年1月27日）</p>
-----------	---

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.3 (1.00)	総費用：1,451億円 （事業費：1,305億円 維持管理費：146億円）	総便益：1,948億円 （走行時間短縮便益：1,638億円 走行経費減少便益：244億円 交通事故減少便益：67億円）	基準年：平成30年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.2（交通量 -10%）	B/C=1.5（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.2（事業費 +10%）	B/C=1.5（事業費 -10%）	
	事業期間変動	B/C=1.2（事業期間 +20%）	B/C=1.4（事業期間 -20%）		
事業の影響	者への影響	自動車や歩行者	渋滞対策	－	注目すべき影響はない。
		事故対策	－	注目すべき影響はない。	
		歩行空間	－	注目すべき影響はない。	
	社会全体への影響	住民生活	◎	【安全・安心な医療アクセスの確保】 ・四万十町、中土佐町から宿毛市の第二次救急医療機関への搬送時間短縮や安静搬送により、患者への負担を軽減。 [四万十町中央IC～幡多けんみん病院までの搬送時間が短縮] 現況 約52分 → 整備後 約47分（約5分短縮） [四万十町、中土佐町の第二次救急医療機関への60分圏域人口のカバー率が増加] 現況 約14,100人（58%） → 整備後 約16,300人（67%）	
		地域経済	◎	【観光振興や地域産業支援に寄与】 ・高知市周辺や高知龍馬空港から、幡多地域の観光地や漁港等への移動時間短縮、定時制を確保。 [高知龍馬空港から四万十市への所要時間] 現況 約104分 → 整備後 約99分（約5分短縮）	
		災害	◎	【防災機能の強化・災害に強いまちづくりを支援】 ・津波浸水する国道56号に代わり、浸水しない高さを確保した大方四万十道路により円滑な救護活動・物資輸送に寄与。 [黒潮町入野～四万十市右山間を移動する経路における津波浸水予測区間の延長] 現況 約4.2km（国道56号経由） → 整備後 0.0km（大方四万十道路経由）	
		環境	－	注目すべき影響はない。	
	地域社会	◎	・防災拠点集約や防災機能を備えた中心市街地の再開発、既存商店街を活用した地域・産業活性化など、まちづくり構想を支援。		
事業実施環境	○	・計画段階評価手続き完了（H27.4.9）、都市計画決定手続き完了（H29.1.27） ・高知県知事や黒潮町長ら沿線自治体首長より大方四万十道路の早期事業化を要望			

採択の理由

費用便益が一体評価で1.3、個別評価で1.00と便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。

また、大方四万十道路の整備により防災機能の強化・災害に強いまちづくりを支援し、観光振興や地域産業支援、安全・安心な医療アクセスの確保など事業の必要性・効果は高いと判断できる。

以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※B/Cの上段は高知JCT～いよ小松JCTを対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果。

# 新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

## 事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
<p>南海トラフ地震による深刻な被害が予測される地域において、国道56号の代替路として円滑な救援活動・物資搬送を支援するとともに、広域観光周遊ルートを活用した地域の観光振興やマグロに代表される地域産業支援、高度救急医療などを行える第二次救急医療機関への搬送時間短縮などに寄与するものである。</p>		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>南海トラフ地震は今後30年以内の発生確率が70～80%、四万十市の最大津波高さは最大22mと予測。並行する国道56号は約5割が浸水。</li> <li>津波浸水を受けない四万十IC付近に防災拠点の集約を図るなど防災機能向上の取り組みが行われており、緊急輸送道路の機能の確保が課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※四国圏広域地方計画（H28.3）</li> <li>・圏域の安全・安心を支える基盤として必要不可欠なインフラである四国横断自動車道、高知東部自動車道及び阿南安芸自動車道等の整備の推進による四国8の字ネットワークの形成を目指す。</li> <li>・防災上重要な拠点間を結ぶ高規格幹線道路や地域高規格道路等の主要幹線道路、耐震強化岸壁、空港施設等のインフラ整備を推進する。</li> </ul>
住民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>高知県西部の高度救急医療などを行える第二次救急医療機関は幡多けんみん病院しかなく、高知市内の高次救急医療施設を含めても、四万十町、中土佐町の人口の約4割（約10,100人）が60分以内に到達できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※四国圏広域地方計画（H28.3）</li> <li>・自然災害発災後の救助・救急、医療活動等やサプライチェーンの寸断回避を図るため、四国8の字ネットワークの形成を目指す。</li> <li>・地域に即した「コンパクト+ネットワーク」の構築を図るため、都市の生活を支える都市機能（医療・福祉・子育て支援・教育文化・商業）をまちの拠点となるエリアへ誘導する。</li> </ul>
地域経済 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>高知県は平成37年までに県外観光客数470万人を目指しており、幡多地域の四万十川や足摺宇和海国立公園などの地域資源を行かした周遊観光の促進が大きな課題。</li> <li>幡多地域は「日本一の種苗生産（クロマグロ）拠点の形成」として位置づけられているが、高速道路未整備による輸送の効率化が課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※四国圏広域地方計画（H28.3）</li> <li>・広域観光周遊ルートの形成により複数の県に跨がって、テーマ性等を持った一連の魅力あふれる観光地をネットワーク化。</li> <li>・圏域内外の交流活性化、物流基盤機能強化等による活力と魅力の向上に必要不可欠なインフラとして、四国8の字ネットワークの形成を目指す。</li> <li>※第3期高知県産業振興計画（H30.3）</li> <li>・幡多地域に日本一の種苗生産（クロマグロ）拠点を形成</li> </ul>
その他		

事業の有効性									
<p>・当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価がCランク→Bランク（Dランク→Cランク）に改善するとともに、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。</p> <p>・また、本事業において、災害時にも機能する信頼性の高い高速ネットワークが形成されるとともに、速達性向上による観光振興や地域産業支援、高度救急医療などが行える第二次救急医療機関への搬送時間短縮に寄与するなど、有効性の高い事業と評価できる。</p>									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善ペア数	脆弱度（防災機能ランク）		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	高知県庁	四万十市	72 (14)	0.73 [C] (1.00 [D])	0.31 [B] (0.65 [C])	▲909.8 (▲38.9)	0.23 (0.04)	0.46 (0.43)	◎

事業の効率性
<p>・計画段階評価手続き完了（平成27年4月9日）、都市計画決定手続き完了（平成29年1月27日）</p>

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は、いよ小松JCT～高知JCTを対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果。